

今月の法話

一、「因果応報と縁起」 二、「不空羅索観音の功德と滅罪」

一、因果応報と縁起

因果応報は、縁の力で結果が変わることをご存じですか？先月も業の話をしました。善因善果、悪因悪果。しかし、現実社会において良い行いをしたとしても、必ずしも良い結果が得られないことは往々にしてあります。逆に悪いことをしていても、それが原因で悪い結果にならないこともあります。そうすると善悪を意識せずに勝手に生きれば良いではないかと思ってしまう人間が出てまいります。

なぜそのようなことが起こるのか。それは「因（原因）」から「果（結果）」が生まれるには「縁」が介在しているためです。良いことをしても喜ばれないこともあれば、何かの取り決めをするときに必ず反対者がいたり、その場のタイミングや流れでダメになることもあります。また、戦争が起こることによって産業発展のきっかけになっています。簡単には原爆から原子力発電、戦闘機のエンジン開発、ミサイルからロケット開発、軍用開発から民間事業へ、いろいろあります。原因から縁によって結果は変化します。良い縁に繋がれば結果は必ず良くなります。その良い縁に繋がる為には徳が必要ですが、それを得ることは難しく時間もかかります。しかし、皆さんは観音様との強い御縁があります。特に今月の観音祭は、一つの祈りが数百倍になる縁起日です。これから天災、人災、疫病と、何が起きてても不思議ではない世の中になってきています。今まで人類が犯した罪や失敗において、全てがその報いだけで災害が起こるわけではありません。それも大自然の営みであり地球の流れでもあります。その不確かな流れの中において観音守護を祈ってください。

私たちにとってよき縁を得ることは幸せへの道です。観音様は「縁は徳なり」と初めて降りたご霊筆で語りかけてくださいました。私はやつと今になってこの本質がわかりました。人類の幸せは全て縁によって変化し、その流れが徳のかたちで良い結果に導びかれます。しかし、世の中には話しても納得しない人や頑なに反対する者も多いでしょう。そこで祈りがあります。祈りは誰も傷つけず自由なのです。ゆえに平和友好の祈りは世界を変え地球も、変えるのです。日本人は、祈りの力が強いことを以前にお話しました。今こそ皆が一つの祈りで災害や戦争を避け、共に救われましょう。一人でも多くの人々に心して言います。一緒に祈りましょう。この度の観音祭も来られない人は同日に自宅で、共に祈ってくださいませ。私たちの祈りには無限の力があります。

縁を得ることに大切なことは、自身が行動する事です。常に感謝の心を持ち表現すること。何事も冷静にして、簡単に癪癪を起こさない。常に安定した心でパニックを起こさない。正しい情報と、人の話を聞く。常に助け合う人になる。優しい言葉で話す。そして正しい祈りです。一つでも二つでも実行してくださいませ。すると観音様をはじめ、世界中の神々が、味方になり、素晴らしい縁を得ることは間違いないです。私もまだまだ未熟で修行中です。共に大変な世の中ですが乗り越えて行きましょう。

二、不空羅索観音の功德と滅罪

「滅罪」という言葉をご存知でしょうか。この世には因果応報の原理が有り、それを業として私達の魂は刻んでいるために成仏することができず、私達は生死を繰り返して輪廻の世界をめぐり続けるのです。この業の浄化を行うのが「滅罪」です。しかし、私たちの世界において「罪」というのは消滅させることはできません。せいぜい報いを受けて償うことです。それゆえ、「滅する」には私達でなく、仏菩薩の大慈悲心による働きにすぎないのです。

この滅罪において大きな力を持っているのが当山の本尊である不空羅索観音菩薩なのです。『不空羅索自在王呪経』の冒頭部分には「この不空羅索神呪王法を成就せば、福德が満ち、あらゆる衆生は一切の業障がみなことごとく清浄となり、福德、財産、食物は集まり、善因は増長して、知恵の方便は巧みになる」とその神変力が強大であること、さらに福德が増すことを説きます。ちなみに当山の経本にも記載されている「おん あぼきや びしやや うんはつた」の真言はこの『自在王経』に説かれている真言です。

滅罪は日本仏教においてとても大切な要素です。まず、奈良時代には「悔過法要」が観音・薬師・吉祥天などを本尊とし、朝廷主導で行われて、衆生の悪業を滅する法要が行われました。修二会はその最たるもので、仏菩薩に悪因悪業を懺悔して、衆生の悪因を滅し、世の中が良くなるように祈る法要です。

一方で鎌倉以降では個人の滅罪に注目します。これは国家から民衆に仏教の担い手が変化していったことが現れているのでしょう。鎌倉新仏教の一角である曹洞宗の道元も『修証義』に「悪業は懺悔すれば滅す。また、重いものは軽くなって受けることができる。善因は随喜（仏法を喜び、深く感謝し帰依すること）すればますます増長する」として懺悔することを勧めていました。

また、浄土宗の法然は「念仏」によって罪障が消滅すると言いますが、それは「念仏」が深い「懺悔」があつて成り立つとしてしているためです。また、『観無量寿経』によれば輪廻の原因である生死の罪は阿弥陀仏の力によって滅するが、それ以外の罪は浄土で報いを受けるとされます。

真言宗中興の「覚鑿」は陀羅尼や真言による滅罪を説き「光明真言」などを唱える実践を勧め、東大寺の別当であつた「永観」は五体投地や真言の誦誦による懺悔、「佛の功徳は無量であるから、衆生の無量の業障も除く」と佛の功徳力による救済を説きます。

このように鎌倉時代の僧侶は「滅罪」が重要であるとしませんが、その中でも特に異彩を放っているのが「日蓮」です。法華宗（日蓮宗）の祖とされ、法華経（妙法蓮華経）の教えを軸としています。そして日蓮はそのエピソードの鮮烈さが際立っており、江の島の近くにある龍の口で斬首されかけるなど数々の受難が有名です。他宗を奇烈に批判する日蓮には敵が多く、様々な難行がその身に降りかかります。日蓮はそれらを何とか切り抜けていくのですが、その受難の人生をこう語っています。「宿業はかり難し、仏法の鏡は過去の業因を現する」と。「私の持つ過去世からの因縁ははかりしれない。仏の教えは磨かれた鏡のようで、仏の前に立つと私の因縁があらわになるのだ。」

また、『心地観経』から引用して「過去世の因縁を知らうとするものは現世を見なさい。来世の果報を知らうとするものも現世を見なさい」と言っています。現世は過去世の報いを受け、来世は現世の行いに拠ります。日蓮は自身の受難は過去世の宿業であり、それを受けることで来世に業因を残さず仏果を得ると考えました。これを滅罪と捉え、御仏の加護により「大難が小難、小難が無難」へと変わったことで受け止められるようになっていたのだと。これは私も実感として感じる事が多く、災難に遭遇した時に常に胸に去来するのは感謝の念です。観音様のご加護あつて今この瞬間も生きていられるのです。

この世は楽しいことよりも辛いことが多く、世の中は苦しみ声にあふれています。仏縁を得た私達は仏の無量の慈悲心と功徳力によって、世の中をより善くしていく使命を持っています。そのためには、まず私達が自身の人生を善いものにしていくことが肝心です。不空羅索観音菩薩は滅罪の功徳が非常に強い菩薩様です。懺悔の思いを胸に、その真言を唱えれば罪障は滅して功徳は高まり、仏の果報を得ることができま

す。まずは、そこから始めましょう。

おん はんどまだら あぼきや じゃやでい そろそろ そわか

○彼岸会のご予約を受け付けております。（九月十九日～二十五日）

ご先祖様や諸霊への追善供養は滅罪・生善の大功徳を得られます。ご先祖様の御縁がなければ、今この場所に私達はいません。この御縁は強く、故に感謝と成仏への祈りは自分自身を助けることにも繋がります。ぜひ、共に手を合わせましょう。

合掌

南無日月光妙法蓮華経

*九月のラッキーカラー、暗剣殺、五黄殺（九月八日～十月八日） ※一年通してのラッキーカラーは白色です。
*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で後祭舞や旅行など控えた方が良い方位となります。

九月のラッキーカラー 黄 緑 赤 暗剣殺 西 五黄殺 東

【お知らせ】

- ① 十月の勉強会の日程：普賢光明寺（鎌倉）十月一日（火）五日（土）六日（日）正午時より
横須賀支部：十月十三日（日）第二日曜日に変更 小田原支部 十月二十七日 午後二時より
滝行予定：九月八日（日）十月十三日（日）塩川滝 集合七時
九月十六日（月・祝）牧馬の滝 キャンプ場駐車場 集合八時三十分
十月二十七日（日）夕日の滝 集合六時
- ② 仏像彫刻教室 九月八日（日）十月十三日（日）正午より
- ③ 不空羅索観音大祭は九月十五日（日）です。（御欠席の方は十月の勉強会にて守護符をお渡しいたします）
- ④ 小田原別院 不空羅索観音祭 十月二十七日（日）正午より
勉強会は法要後に行います。ご出席を希望される方は人数確認が必要ですので必ず寺の方までお知らせください。
- ⑤ 観月会（十五夜法）の日程：十五夜：九月十七日（火）十九時より（護摩法）
十三夜：十月十五日（火）十八時より。（阿字観瞑想法）詳細は別紙にてご確認ください。